

色覚検査

のすすめ!

色覚に異常を持つ生徒の約半数は、検査を受けるまで自覚がありませんでした（日本眼科医会調査）

異常のタイプや程度により、一部の仕事に支障をきたすことがあります

進路を決める前に検査を受けて自分の色覚を知ることが大切です

色覚の異常はおおよそ男子の20人に1人、女子の500人に1人に見られます



色覚の異常の程度による業務への支障の目安

※2色覚……(旧) 赤色盲・緑色盲
異常3色覚……(旧) 赤色弱・緑色弱

異常3色覚でも困難を生じやすい業務

鉄道運転士、映像機器の色調整、印刷物のインク調整や色校正、染色業、塗装業、滴定実験

2色覚には難しいと思われる業務

航海士、航空機パイロット、航空・鉄道関係の整備士、警察官、商業デザイナー、カメラマン、救急救命士、看護師、歯科技工士、獣医師、美容師、服飾販売、サーバ監視業務、懐石料理の板前、食品の鮮度を選定する業務

2色覚でも少ない努力で遂行可能な業務

医師、歯科医師、薬剤師、教諭、調理師、理髪師、芸術家、建築家、電気工事士、端末作業を伴う一般事務

2色覚でもまったく問題ない業務

モノクロ文書による一般事務、その他色識別を必要としない業務（色以外の情報がすべて付加されている業務を含む）